

量産品と特殊品が両方できるのが特徴
(モーター部品の検査工程)



生産ライン 競争力の源泉

24

明和製作所

明和製作所(福岡県糸島市、生野岳志社長)が、モーターの生産性向上の取り組みを進めている。生産と納期のリードタイム管理の高度化では、10年以上前から取り組む制約理論(TOC)に基づき手法が浸透している。ユーザーの用途に適した専用設計と、多品種小ロット生産に柔軟に対応できるのが同社の強み。本来、限られた品目の生産に効果的な自動化設備の導入は適さないが、独自の改善活動で成果を上げる。(西部・関広樹)

モーター生産で特徴的な作業が生産数が少ないケースで、治業が電線を巻き付ける巻き線具への投資費用を抑えられる工程だ。モーターの心臓部とからだ。

生野社長は「量産品と特殊品が両方できるのが当社の特徴」と話す。さらに歯車や減速機といったモーターの周辺部分を含めた内製率の高さも特徴であり、強みだ。

生産管理には、販売管理を組み合わせ合わせた統合型システムを導入。全体最適を考慮した人の手による「手巻き」とな納期管理と並行して工程ごと手巻きは時間がかかる。さらに製造現場の作業者4人当たり1台の専用端末と巻き線が可能でも手巻きを選択し、コードリーダーのセットで試作段階やの活用を進める。通信インフ

量産品と特殊品 最適工程

販売管理を組み合わせた統合型の生産管理システムを導入(現場の端末を操作する作業者)



理の取り組みを拡充する。将来はバーコードに代わるI・Cタグの採用も検討する。

品質管理は独自の「3H+プラス」F・C管理」という仕組みによる。Hは「初めて」「変更」「久しぶり」の製品や作業。ミスが発生しやすいための生産管理システムで自動的に注意

ラと情報セキュリティの強喚起する。「久しぶり」は1年以上も取り組む。これにより発生したことがある製品、作業も作業完了時に現場でCは海外規格認証品などを指し、生産前に注意を出す。

生野社長は「品質は永遠の課題で完全な解決はあり得ない」と気を引き締め、日々改善を進めて生産管

モーター電線「手巻き」併用